

袋井市教育委員会 会議録（要旨）

会 議 名	令和4年8月 袋井市教育委員会 定例会
招 集 日 時	令和4年8月26日(金)午後1時00分 移動教育委員会（育ちの森） 令和4年8月26日(金)午後2時30分 定例会
会 議 時 間	移動教育委員会 午後1時00分から午後2時10分まで（1時間10分） 定例会 午後2時30分から午後3時30分まで（2時間00分）
場 所	教育会館3階 ICT研修室
出 席 者	鈴木一吉 教育長 鈴木万里子 委員 大谷純應 委員 瀬川香織 委員 溝口知秀 委員 (計：5人)
欠 席 者	無し
傍 聴 者	無し
当局出席者	城内 優 教育部長 山本裕祥 教育監 石黒克明 教育企画課長 小鷹義晴 おいしい給食課長 杉山明子 すこやか子ども課長 神田明治 学校教育課長 大庭尚文 生涯学習課長 山本義孝 歴史文化館長 内野江梨子 袋井図書館長 山本 浩 教育企画課長補佐 (計：10人) (合計：15人)
会議に付した 事 件	別紙「令和4年8月 袋井市教育委員会定例会 議事日程」の とおり

令和4年8月 袋井市教育委員会定例会 日程
会 議 日 程

- 日程第1 開 会
- 日程第2 会議録署名委員の指名
- 日程第3 会議録の承認
- 日程第4 教育長報告
- 日程第5 教育部月例事業報告
- 日程第6 議 事（会議に付すべき事件）

（1）報告事項

- 報第97号 令和3年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について
- 報第98号 令和3年度における指定管理者の管理運営に対する評価について（笠原児童館ほか1施設）
- 報第99号 令和3年度における指定管理者の管理運営に対する評価について（袋井市月見の里学遊館ほか1施設）
- 報第100号 令和3年度における指定管理者の管理運営に対する評価について（袋井市メロープラザ）
- 報第101号 令和4年度放課後児童クラブ利用待機児童数の現状について
- 報第102号 令和4年度第1回袋井市青少年問題協議会の開催結果について
- 報第103号 令和3年度 児童生徒の体力体格・健康の状況について
- 報第104号 寄附品の受納について

日程第7 その他

（1）連絡事項

ア 愛の手紙特別編

（2）次回定例会等の予定について

第1回総合教育会議

8月23日（火）午前9時30分～ 教育会館3階 ICT研修室

8月教育委員会定例会

8月26日（金）午後1時00分～ 育ちの森

8月26日（金）午後2時30分～ 教育会館 3階 ICT研修室

日程第8 閉 会

1 開会

●教育長

2 会議録署名委員の指名

●教育長

鈴木委員と 溝口委員 を指名

3 会議録の承認

●教育長

4 教育長の報告

●主な報告事項

7月19日に県の池上教育長が袋井北小学校に視察というか、学校を体験したいということで、子ども達の朝の通学から帰りの見送りまで、1日学校にいて支援員として働いていただきました。袋井北小は大規模校で、特別支援学級も多く、学校の課題を把握していただくには一番いいということでした、その様子は県のホームページで池上教育長の「ようこそ教育長室へ」にコメントされています。その中で、池上教育長は、大規模校はかなり課題があると思っていたが、先生がたくさんいて教科担任制がわりと進んでいる、やICTがかなり進んでいて活用されているということを書かれていました。よろしかったらご覧ください。

5 教育部月例事業報告

●教育企画課

- ・学園研修会 (8月2日)
- ・第2回就学前教育推進会議 (8月5日)
- ・第1回総合教育会議 (8月23日)
- ・幼小中一貫教育 統括校長会 (9月22日)

●おいしい給食課

- ・学校給食従事者 衛生講習会 (8月19日)
- ・食物アレルギー研修会 (8月19日)

●学校教育課

- ・広島平和記念式典中学生派遣 (8月5日～6日)
- ・イングリッシュデイ・キャンプ (7月27日～29日、8月3日～4日)
- ・外国語教育指導力向上研修会 (8月9日)
- ・定例校長会 (8月24日)
- ・研修主任研修会 (9月5日)
- ・初任者研修検討会議 (9月9日)
- ・外国人児童生徒担当者会 (9月9日)
- ・定例校長会(教頭会) (9月28日)
- ・袋井市就学支援委員会 (9月29日)

・
・

●すこやか子ども課

- ・ 保育園・こども園長会（私立）、小規模保育所長会、定例園長会（市立）
(8月19日、24日、25日)
- ・ インクルーシブ研修 (9月8日)

●育ちの森

- ・ 子ども早期療育支援センター療育公開 (7月25日～)
- ・ 子ども理解講座テーマ「子どもの怒りやかんしゃくのメカニズムと対応」※動画配信
(8月1日～)
- ・ はぐ茶会（保護者会） (9月10日)
- ・ 子ども支援室 学校訪問（きんもくせい） (9月9日～)

●生涯学習課

- ・ 静岡理工科大学連携事業もじもじっけんワークショップ (7月30日)
- ・ 月見の里学遊館運営協議会 (8月3日)
- ・ 第2回社会教育関係研修会(第2回袋井市社会教育委員会・視察) (8月4日)
- ・ 令和4年度第1回袋井市文化財保護審議会 (8月4日)
- ・ 令和4年度袋井市家庭教育支援チーム連絡会 (8月10日)
- ・ 東京藝大交流事業「みんなの池公園をデザインしよう」ワークショップ (8月6日、7日)
- ・ メロープラザ運営協議会 (8月9日)
- ・ 放課後子ども教室コーディネーター会議 (8月9日)
- ・ 令和4年度第3回袋井市文化振興計画策定委員会 (8月18日)
- ・ 静岡文化芸術大学連携事業絵本ワークショップ (8月19日)
- ・ 出張としょかん (6月29日、7月29日、8月21日)
- ・ 「令和5年 袋井市はたちの集い」第1回実行委員会 (8月23日)
- ・ 「袋井の弥生時代遺跡展」ギャラリートーク (8月24日)
- ・ 静岡理工科大学「市民体験入学」 (8月27日)
- ・ 第3回静岡理工科大学「研究室訪問@SIST」 (9月14日)
- ・ アカウミガメ放流会 (9月17日)

6 議事

【協議事項】

協第9号 令和4年度9月一般会計補正予算について

●教育企画課長

9月市議会定例会に上程します補正予算の協議になります。まず歳入として、教育費寄附金 図書館費寄附金ですが、例年ご寄附をいただいております一般社団法人勸農報徳社からの図書館の蔵書充実に向けた寄附金 200万円でございます。もう一つ、教育費寄附金は、本年3月31日から4月3日まで、ヤマハリゾート葛城ゴルフクラブで開催されたヤマハレディースオープンの収益の一部を主催者から本市の文化、スポーツ、地域活性化に資する事業に、とのことで寄附をいただき、月見の里学遊館のトレーニング機器の入れ替

えの財源として活用させていただきます。トレーニング機器の購入は当初から予定されており、その財源として文化振興基金から取り崩しを予定していましたが、今回の寄附金を充当することから、当初、財源として予算計上しておりました文化振興基金繰入金を取りやめ、今回の補正予算におきまして減額するものであります。次に歳出であります。償還金利子及び割引料の項目が3つございまして、放課後児童クラブ、民間保育所、認証保育所等に対して交付した補助金につきまして、令和3年度の事業費の確定に伴い、多く交付していた分を国県に返還するもので、放課後児童クラブ分につきましては1,975千円、民間保育所分として15,888千円、認証保育所、無認可保育施設分として381千円であります。また、5月の教育委員会定例会で協議いただきましたが、6月市議会定例会に補正予算計上いたしました公立の幼稚園、こども園、小中学校に対し、野菜等の食材費の高騰に対し1食あたり18円の補助を計上いたしました。それと同様に、今回の補正で民間の保育所等に対しましても給食食材費の一部を補助するものです。最後に図書館蔵書充実事業として、歳入でも説明させていただきました勸農報徳社からの寄附金2,000千円を使いまして、新たに袋井、浅羽両図書館で蔵書を購入するものです。次に債務負担行為です。債務負担とは市の予算は単年度で行われていますが、年度を跨いで、複数年で事業を行う場合は予算を確保するため、債務負担行為として予算に計上することになっています。今回2件ございまして、1つが、7月の定例会で報告させていただきました、市全体でゼロカーボンシティに取り組みとして、公共施設に太陽光発電設備の設置を進めるもので、今回、中部学校給食センターに来年3月に太陽光発電設備を設置するため、この10月に設置者であります鈴与商事と向こう15年間の太陽光発電設備の使用契約を締結するもので、その契約締結には予算措置が必要なことから、今回、令和19年度までの使用料につきまして債務負担行為を設定し予算確保をするものです。年間の使用料の2,170千円は、太陽光発電設備の設置相当額を今後15年間、施設の使用料として毎年支払うものです。2つ目の債務負担行為ですが、月見の里学遊館受変電設備等、これは空調はプールの熱源に関する設備の改修に係るものでございます。当初計画では来年度の予算に計上する予定でしたが、工事に必要な部材の確保に期間を有することが判明したことから、今年度中に業者を決定し、工事の準備に着手しなければならなくなったことから、業者決定に必要な予算を確保するため、今回、来年度までの債務負担行為を設定するものです。

[質疑・意見]

なし

●教育長

本件は原案どおり承認します。

【報告事項】

報第97号 令和3年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書
について

●教育企画課長

委員の皆さんには6月の定例会にて、資料の前半部分について、教育委員会の令和3年度の実施結果と考察につきまして、確認いただいたところではありますが、今回は有識者の点検、評価を行いまして、その内容と有識者からいただいた意見に対する対応を追記した

ものを本日、報告させていただきます。資料の4ページをご覧ください。2 点検及び評価の方法 (1) 点検及び評価の対象ですが、アで教育委員会の活動を、イで教育委員会が管理・執行する事務、ウで教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務ということで教育委員会事務局が昨年度、重点的に取り組んだ3つのものを点検評価しています。25ページからが学識経験者の意見ということで、3人の学識経験者の方に専門的な立場から評価いただきました。34ページからは評価を受けての対応ということで、改善点等を記載しております。本日はここを報告させていただきますが、量が多いことから、別資料で説明をさせていただきます。常葉大学の安藤副学長からは事務事業全般に関することを、社会教育委員長でもあります静岡理工科大学の齋藤教授からは社会教育の観点から、県の教育委員会静岡西教育事務所の鈴木所長からは義務教育の観点から意見をいただきました。学識経験者から全体評価と項目別評価について、それぞれ肯定的な評価、改善や方向性への助言をいただきました。その助言の主なものを4ページにまとめ、併せて教育委員会の対応を記載しましたので、そちらをご覧ください。安藤副学長からは、P D C Aの効果を高める方法の検討では、実施事業においては目標を具体的に設定することが大切で、その目標に向かって対象や具体的な方法を明確に示し、P D C Aを回していくこと、また一方的なP D C Aではなく、時にD oの後にP l a n、計画を見直すといった柔軟性も必要、こんな小さなP D C Aサイクルを回す必要があるとの指摘をいただいております。その対応として一般的なP D C Aサイクルの結果を次年度に反映していく手法が中心ですが、途中段階での振り返りや立ち止まりで改善を図っていく、またサイクルの実効性を高めて、事業のスクラップや効率化を図っていく、こんな方向性で考えています。齋藤社会教育委員長からは子ども一人ひとりを大切にしたい 支援の充実については、いじめ問題の対応に關いして、全体的な数値の増減ではなく、今後も引き続き一人ひとりに向き合った対応を、また外国人児童への支援では保護者への支援も必要である、とのアドバイスをいただきました。これに対して、いじめ対策ではきめこまやかな対応を学校へ働き掛けていくことや、進級や進学には引継ぎをしっかりと行っていくこと、心のケアを大切にしていける、また外国人の保護者への電話での連絡や面談の設定など情報共有を大切に、児童生徒のよりよい生活環境をめざしていく方向性を示しています。読書活動の推進と図書館機能の拡充では、令和3年度の資料の貸し出し点数と貸し出し利用者数の増加を肯定的に評価いただき、図書館のコミュニティセンター的な役割や学びに加え、市民交流の場としての発展への期待に対し、従来の貸し出しや利用者からの問い合わせに対する図書の紹介や検索に加え、ワークショップ参加者への関連図書の紹介、商業施設等への出張おはなし会の開催など、本を介した市民の交流や賑わいづくりを図っていく方向性を示しています。鈴木静岡西教育事務所長からは子どもに良質な教育・保育の提供に対し、待機児童ゼロの結果に大きな評価をいただき、引き続きの対応と、放課後児童クラブの定員数の目標への達成について意見をいただいております。これに対して人口推移や地区ごとの保育ニーズを見ながら、施設、認定こども園の定員の調整や、既存幼稚園の認定幼稚園化を検討し、また放課後児童クラブの定員は、人員確保に向けた処遇の改善の検討や、学校の特別教室の活用など定員確保に努めていきます。また、確かな学力を育む教育の推進では、袋井型の授業の一層の定着、充実、I C Tやタブレットの効果の検証を通じていかに学力に繋げていくかがポイントであるとの意見でした。教員に対する國學院大學の田村教授の研修会やI C T

研修会の実施により日常的な袋井型授業づくりに取り組んでいる点、また学習アプリの効果的な活用と授業と家庭学習の継続的な取り組みの実施を方向性として考えています。子ども一人ひとりを大切にした支援の充実では、本市が独自に取り組む県立の特別支援学校との連携による教員の交流の有効性を認め、継続発展への期待をいただいております。袋井特別支援学校、浜松聴覚特別支援学校、浜松視覚特別支援学校との引き続きの連携、特に袋井特別支援学校とのコンサルティング制度に基づく各学校への訪問や相談業務の継続など子ども一人ひとりのニーズにあわせた特別支援を方向性として考えています。その他にも本編に記載のとおり、様々な助言、アドバイスをいただいております。いただいた意見を真摯に受け止め、事業の取り組みの改善や効果的な運営、さらには市民に開かれた教育委員会活動に向けて取り組むことを今回の点検・報告書の最後に記載しております。今後、本日の定例会を経て、9月市議会民生文教委員会で報告し、最終的に市民に対し公表していきます。

[質疑・意見]

なし

●教育長

報第99号から報第100号は指定管理者の評価についての報告ですので、一括して説明し、質疑についてもその後にいただきたいと思っております。

報第98号 令和3年度における指定管理者の管理運営に対する評価について（笠原児童館ほか1施設）

●すこやか子ども課長

指定管理の概要ですが、笠原児童館はすこやか子ども課が所管し、他1施設は笠原老人福祉センターになり、しあわせ推進課が所管しています。指定管理者は社会福祉法人袋井市社会福祉協議会です。指定期間は平成31年4月1日から令和6年3月31日までとなっています。令和3年度の評価結果ですが、昨年度と同様にAといたしました。仕様書や協定書の内容に基づき、適切な施設管理・運営が実施されていることに加え、コロナ禍で利用の制限がある中でも感染防止対策を徹底して利用者ニーズに応じた自主事業を実施することが、利用者の増加につながっていることを評価し、A評価としました。これ以降は笠原児童館の説明となります。施設の運営につきましては、運営企画では笠原児童館は新型コロナウイルス感染拡大の第2波の昨年9月に感染拡大防止のため、1カ月臨時休業しました。利用実績では利用者は延べ2,296人で利用者は前年度より1割増となっています。児童館だよりを学校や子育て支援センターに配布し事業の周知を図ったことや、平日の放課後、笠原小の児童の利用が増えたことが要因と考えています。事業収支につきましては、収入支出とも適切に処理されています。決算額は総額で1,232万円余、計画値の95.4%となり収支の均衡は図られています。収入の指定管理料1,184万円のうち、笠原児童館に関するのは744万円になります。業務の履行状況につきましても適切にされています。児童館の自主事業の実施状況ですが、子どもたちが楽しめる館外学習や手工芸、工作、ゲーム大会、季節の行事を感染対策をした上で実施しました。設備備品の維持管理やサービスの質、個人情報保護規定の遵守も適切に行われていました。苦情・事件・事故対応はござい

ませんでした。経営状況ですが、前年度と同様、適切な経理状況でした。年度評価ですが、前年度と同様Aとなりました。市から指定管理者への改善指導、助言等につきましては、感染防止対策を講じた上で、安心・安全な施設運営を継続し、自主事業を通じて市内市外問わず子どもが誰でも利用できる、子どもたちの居場所づくり等の特色をさらに広げ、子育て支援センターやコミュニティセンターなどの他の施設との違いを発信できること、また、修繕等の対応が必要な部分については、引き続き市に報告・相談した上で適切に対応し、環境改善に努めるよう指導助言を行いました。市による改善措置は記載の通りです。

報第99号 令和3年度における指定管理者の管理運営に対する評価について（袋井市月見の里学遊館ほか1施設）

●生涯学習課長

月見の里学遊館ほか1施設ということですが、ほか1施設については、隣接する月見の里公園で維持管理課の所管となっています。指定管理者は袋井市文化協会グループで、袋井市文化協会と遠鉄アシスト、東海ビル管理の3者で構成されるグループです。期間は令和2年4月1日から令和7年3月31日までの5年間となっています。令和3年度の評価ですがA評価となっています。それぞれ評価項目につきまして、評価検証1 施設の運営ですが、会館日数は306日で前年度と比較し24日多くなっています。前々年度は緊急事態宣言を受け、4月21日から5月17日まで臨時休館を求められたことから、前年度はその分が増えているものです。コロナ禍の中、利用者の安全第一を考えながら、一部事業の中止はありましたが、むやみに事業を中止するのではなく、利用制限を行いながら、例えば野外ステージや公園を使って野外フェスタを開催するなど感染リスクを減らしながら事業を実施し、工夫することで利用者も年間で11万2,794人と前々年度よりも2万2,7百人余増えています。収入支出については、適切に執行されています。収入は1,463万円余、前々年度よりも増えています。それに伴い支出も増えておりますが、収支としては57万8千円余のプラスとなっています。以降の評価検証ですが、担当職員が先方の職員と面談を行い、書類を確認する中で適切に実施されていることを確認いたしました。館長や事務局長からもヒアリングを行いました。その結果として年度評価ですが、協定書や仕様書の内容に基づき適切に行えていることを確認し、コロナ禍においても文化芸術に触れる機会を提供するため工夫しながら開催することが確認できましたので、基準に照らし合わせて適切に行われていると判断し、A評価といたしました。

報第100号 令和3年度における指定管理者の管理運営に対する評価について（袋井市メロープラザ）

●生涯学習課長

つづいて、メロープラザになります。指定管理者はメロープラザサポーターグループで、指定期間は令和2年4月1日から令和5年3月31日で今年度末までとなっています。こちらにつきましてもA評価とさせていただきました。評価・検証1 施設の運営の運営企画にありますとおり、開館日数は316日で前々年度よりも35日増えております。これは前々年度が月見の里学遊館同様に緊急事態宣言下での臨時休館の影響です。年間利用者数は延べ2万9,711人で事業を実施することができました。前々年度よりも1万423人増となっています。感染対策を行った上でできるだけ事業を行った結果であります。収入支出に

つきましても、適切に行われていることを確認しました。その他の評価項目につきましても館長と事務局長とヒアリングを行い、関係書類も確認し、適切に実施されていることを確認しました。その結果、令和3年度の年間評価として、施設の管理運営が適切に行われていること、コロナ禍においても小規模分散型のイベントの開催など工夫しながら積極的に文化振興が図られていること、この小規模分散型というのは、一度に多くの人を集めるのではなく、一定の期間で日をずらしながら事業を実施する形です。そのような工夫を重ね集客を行ってきました。これらを確認し、要求水準を満たしていることからA評価としました。

[質疑・意見]

●溝口委員

3件ともよい評価で何よりです。気になった点は3件とも苦情とか事故とかがまったくなかったということですが、今、これが世間では重要視されていまして、多くの会社で専任の職員をつけるといった対応をしまして、苦情があったらすぐ対応して、それを組織で横展開するといった形を取っています。苦情等がないのは素晴らしいことですが、書きづらいことがあるので載っていないではまずいのでよく見てもらいたいですね。

●教育長

過去、ここへの記載ってありましたか。

●すこやか子ども課長

ありました。投書箱への投書だけでなく、電話での苦情もありました。

●溝口委員

まったくないわけではないですね。安心しました。

報第101号 令和4年度放課後児童クラブ利用待機児童数の現状について

●すこやか子ども課長

8月1日現在の放課後児童クラブにおける待機児童は10人となり、4月1日現在から62人の減となりました。減少した原因としては、待機児童の大半を占めていました夏休みなどの長期休業中の利用希望で、定員を増やして対応し、長期休業中の待機児童はゼロとなりました。各小学校の協力をいただき、特別教室を使わせてもらうことができ、4年生以上は特別教室での実施とし、空調等も夏休みまでに設置を完了し環境を整えました。補助員につきましても、大学生のアルバイトや、夏休み中の学校の支援員を放課後児童クラブで雇用しました。またシルバー人材センターからも派遣をいただくなど人材の確保を進め、待機児童を減らすことができましたが、常時の待機児童は残っている状態です。

●教育長

まだ常時の待機児童が発生しているで、引き続き施設整備、環境整備を進めていきます。とはいえ60人を減らしたことは、監査委員からも評価をいただいております、引き続き取り組んでいきます。

[質疑・意見]

なし

報第102号 令和4年度第1回袋井市青少年問題協議会の開催結果について

●生涯学習課長

青少年問題協議会は青少年のすこやかな成長のため、小中学校、高校の教員、警察、家庭児童相談所、民生委員、自治会連合会、PTAの代表者にお集まりいただき、青少年を取り巻く課題を共有するために開催しています。今回、出席者による意見交換と終了後の講演会の二部制で行いました。意見交換では「アフターコロナにおいて子どもたちの活動に大切なこと」をテーマに、コロナ禍が子どもたちの成長に与えている影響を関係者で共有しました。様々な意見をいただきましたが、まとめると4点になりました。一つはマスクで表情が読めない、交流機会が少ないことによるコミュニケーション力不足という意見、マスクで顔を隠したい、自己防衛的な意識という方もいましたが、マスクが外せない子がいるという意見、自分で考えて行動することを目標に取り組んでいますが、教員の発想を超えた子どもが出てきているが、一方でその力が弱い子はより弱くなっている。また、コロナ禍で行動制限が課される中、いろいろな人と接する機会を持つこと、体験や経験を作ることが必要なのにそれに努めていこう、との意見がありました。第二部の講演会ではネットと性をテーマに講演会を行いました。ネットと性ですが、子どもたちが性被害を受ける際、ネットとの関連性が強いということで課題として捉え実施したものです。50名の定員のところ、67名の方に聴講いただき、共通理解を図っていただきました。講師としてメディアリテラシーの専門家である長澤弘子さんと保健師の立場で性教育の普及活動を行っている佐々木陸美さんのお二人を迎え、最近の若者の性事情について事例紹介をしながら関わり方について講演いただきました。参加者からは専門家の二人が補足し合って進めるやり方で理解が深まったなど高い評価をいただくとともに、あらためて課題の大きさについて再認識した、とのご意見もいただきました。会議の結果報告をこのようにまとめることはありませんでしたが、意見交換や講演会を開催するだけでなく、各団体、関係者とも共有する目的で作成しましたので、その旨を添えて各団体等に配布していきます。

[質疑・意見]

なし

●教育長

先に寄附金の報告をさせていただきます。

報第104号 寄附品の受納について

●すこやか子ども課長

この度匿名で、本の国のもじもじの小びとさんという方から袋井北小学校区の放課後児童クラブののびのび北クラブ宛に図書やマスク、清涼飲料など6千円相当のものをいただきました。この方からは平成24年度からいただいております、これまで11回、55冊の図書などをいただいております。

[質疑・意見]

なし

報第103号 令和3年度 児童生徒の体力体格・健康の状況について

●学校教育課長

昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果をもとに分析を行いましたので担当の北浦指導主事から報告させていただきます。また、体力。体格の話は子どもたちの健康面とも密接につながっていることから合わせて健康状況についても報告させていただきます。こちらにつきましては袋井北小の金原養護教諭が分析を行いましたので、金原から具体的に学校現場の状況を踏まえながら説明させていただきます。

●北浦学校教育課指導主事

全国体力・運動能力、運動習慣等調査は小学校5年生と中学2年生を対象に行っています、実技テスト調査については過去10年間の数値とあわせてまとめました。体力合計点では小学校5年生女子を除き、過去10年で最低となっています。女子の小5、中2ともに全国平均を上回っていますが、中2は過去最低でした。種目別では長座体前屈と立ち幅跳びでは長座体前屈は向上していますが、立ち幅跳びでは小学校で低下傾向にあります。握力とボール投げでは、小学生の握力は低下傾向にあります。ボール投げですが、小学生はソフトボールを、中学生はハンドボールを投げますが、小中ともに下がり気味です。特に中学校の投力は過去10年で最低の記録となりました。持久走とシャトルランでは、中学生は持久走を行いますが、中2の男子が下がり傾向で、小学生のシャトルランでは男子の回数が大きく下がっています。体力を5段階に分け、A Bが上位層、D Eが下位層として分けて、その比率を見ますと、小5では平成27年度にそれまで上位層の割合が高かったのが、下位層の割合の方が高くなり逆転してしまい、今に至っています。全国には令和2年度に下位層が上位層の割合を上回りました。中2も同じ傾向で本市では平成30年度に下位層が上位層を上回りました。女子については小中ともそのようなことはありませんでした。昔と比べて男子の体力が下がってきている、上位層が減って下位層が増えているのが全国的な傾向といえます。体力の伸びという点では、T得点、これは全国平均と比較して何点なのか、というもので、これを比較することでどれくらい伸びているかを調べました。令和3年度、中学2年生のT得点と、彼らが小学校5年生だった平成30年度のT得点と比較し、どのくらい伸びているかですが、この数値が0ならば全国平均と同じ伸びということになります。この数値がプラスならば全国平均よりも伸びている、マイナスなら伸びていないと考えられまして、静岡県と本市の状況を見ますと、男子については全国平均よりも伸びていて、本市は長座体前屈やシャトルラン、立ち幅跳びで県平均よりもかなり伸びており、全体的に伸びている状況です。女子はより顕著で、上体起こしとボール投げの伸びは全国平均を下回っていますが、それ以外、握力。反復横跳び、立ち幅跳びは大きく伸びており、女子は中学に入って大きく伸びている、そんな状況です。袋井の子ども達は大器晩成と言えるのではないのでしょうか。中学校では部活動が、小学校では昔やっていた水泳大会、陸上大会の寄与が大きいのではと思います。今、大会がなくなってしまったので今後どうなるのか心配をしているところです。次に身長ですが、過去10年で最高でした。体重については特段わかることはありません。スクリーンタイムですが、これはテレビやDVD、ゲーム機、スマートフォンなど画面を見る時間でして、本市の中2は男女とも3時間以上の子の割合が45%と全国平均を大きく上回っており、2時間未満の子は全国平均よりも少なくなっています。運動が好き、との問いについては、全国平均と比べての大きな差はなく、若干上回っている状況ですが、中2女子以外は運動が好きと答えている割合が

60%を超えていますが、中2の女子が全国平均よりも低く40%を切っている状況です。全体を通しての分析ですが、激しい運動がコロナ禍で控えられたことから運動強度が低くなっており、心肺機能に係る体力も低下しています。スクリーンタイムの増加は、家庭での生活が大きく影響を与えていますので保護者への啓発が必要です。コロナ禍で体力をつけなくてはならない訳ではありませんが、まずは体を動かすことが好き、体を動かす良さがわかる、そんな児童生徒を増やしてく取り組みを通じて子どもたちの体力低下に歯止めをかけたいと考えています。

●金原袋井北小学校養護教諭

調査の概要ですが市内の小中学生全員の体格と疾病被患率から集計しています。結果の概要ですが、まずう歯の被患率、虫歯の状況ですが、減少傾向にあり。小中学生ともに昨年と比較し減少しています。これは歯科医院が治療の場所から定期検診の場所が変わりつつあり、保護者の意識も変わっていると影響していると思います。次に裸眼視力1.0未満、矯正視力も含みますが、その割合は小学生では顕著な傾向はなかったですが、中学生は増加傾向にあり、昨年から5ポイント増加し、男子は52%、女子は64%に達しています。痩身傾向ですが、痩身傾向の子どもで思春期に入りもっと痩せたいと願望を持っている生徒がいると聞いています。こちらの対策もこれから考えていく必要があります。肥満傾向については令和元年度以降、小学生の男子、中学生の男子が増加傾向にあります。次に鼻炎や副鼻腔炎などですが、ここ数年減少傾向にありますが、小学生の男子のみ、小学生女子、中学生と比べると10ポイント高くなっています。アトピー性皮膚炎は近年、増加傾向にあり、中学生女子、小学生男女で過去10年でもっとも高く、10年前の2倍以上となっています。ぜん息の被患率、心電図異常の割合、蛋白尿の検出割合は顕著な変化は見られませんでした。分析ですが、視力低下と肥満傾向の増加は、スクリーンタイムの増加と新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きいと考えています。肥満傾向の児童生徒の増加は生まれ持った体質によるもののほか、家庭環境や幼児期からの生活習慣にも起因するため、生活リズムや食事のバランスも整える必要があると考えられます。保護者への啓発を進めていく必要があると考えています。

●北浦学校教育課指導主事

これらの結果を踏まえて、本市の今後の対策として、まず運動する機会をたくさん作っていくこと、さらには本物に出会える機会、体験をスポーツ政策課と連携しながらプログラム等を作っていきます。部活動も大きな運動機会となりますので、地域指導者の派遣を進めていきます。小学生には県が主催する体力アップコンテストへの参加を促します。また3つ目として、学園ごとの体力、運動習慣の結果をもとに、学園として幼小中一貫した取り組みを行い、子供たちの体力向上に努めていきます。4つ目としてはスクリーンタイムの増加が大きな課題と考えています。県のネット依存システムによるセルフチェックにより生活改善のための支援、子どもたちが自ら制限できるような資質を身に付けてもらうよう、保護者と協力しながら進めていきます。さらにはおいしい給食課と連携をして自分の健康や体の成長を考えてバランスの良い食事、必要なエネルギーを接種できるよう、保護者への啓発と併せて行っていきます。

[質疑・意見]

●大谷委員

スクリーンタイムが増えていることは、体力面、健康面で影響が出てきているな、と思いました。中学生のスクリーンタイムで、男子は画面を見ていることが多い、女子は少ない中で、裸眼視力とか、肥満度とか差があるか見ていましたが。健康とは違いますが、学力調査では小5で男女で差があるのでしょうか。画面を見ることがそのまま余暇、娯楽に繋がるとは限りませんが、小学校も、中学校も男子のスクリーンタイムが全国平均と比較して顕著に多いのは、いろんなところに影響がでるのでしょうか。わかりやすいのは男子と女子でスクリーンタイムが、画面を見ている時間に差が出ている中で、健康面だけでなく、学力面でも差があるんじゃないかと思うのですが、どうでしょうか。

●**学校教育課長**

男女別の差を出すのは難しいですね。

●**大谷委員**

難しいと思いますが、これだけ顕著に差があると、学力にも差があるのかなと思ったりします。これまで子どもは男女関係なく、見ているのだろうな、と思っていたのですが、これだけ男女で差があるとは思っていませんでした。女の子は何を見ているのですかね。

●**瀬川委員**

女の子はゲームをやっている時間が少ないんでしょうね。男の子はゲームだと思いますが、女の子はそこまでゲームにはまっていないのでは。

●**学校教育課長**

印象では、小学生はゲームですね。特に男子は。女子はそこまでではない、他のことで遊んでいる、そんな印象です。中学に入るとスマホを持つ子が増えてきますので、男女関係なく、同じという印象です。

●**瀬川委員**

子ども達が遊んでいる様子を見ていると、男の子は幼稚園の時からずっとゲームですね。

●**大谷委員**

健康面だけでなく、先ほども申し上げた通り、総合的に学力や進路にどう影響しているのか、リアルを経験している女子の方が男子と比べてどうなっているのか、スクリーンタイムが男女で顕著に違うので、どうなのでしょう。

●**瀬川委員**

スクリーンタイムには勉強で使っているものは入っているのですか。

●**学校教育課長**

ちょっとわからないですね。

●**教育長**

スクリーンタイムと学力に相関関係があるのか、面白い視点ですね。

●**瀬川委員**

体力面ですが、近隣の市町と比べてどうですか。全国平均との違いとか。

●**学校教育課長**

他市町との比較は難しいですね。全国平均との比較についてもその市町の考え方もありますので。

●教育長

県全体の話だと、ボール投げについては、静岡県は全国45位とか、ずっと低いですね。

●学校教育課長

私が主幹教諭やっていたときもそうでしたが、昔からボール投げは課題でしたね。

●鈴木委員

昔から対策を取ってきているのですが、向上しませんね。

●学校教育課長

小学1年生を見ていると投げ方を知らないですね。手と足がバラバラで投げていますね。

●教育長

静岡県は小学生の時は低いですが、中学生になると平均より上にいくですよ。これは学力調査も同じですね。何が原因かわかりませんが、静岡県の傾向としてそうですね。

●瀬川委員

おっとりしているからですかね。でも中学になって伸びるのはいいですね。小さいころからガツガツやらされていないんですかね。

●鈴木委員

これまで陸上大会とか水泳大会があってそれに向けてやっていたことが大会を止めてしまって練習がなくなったこと、部活動も今後、縮小していく方向にあること、何年か後に変化が出てくるんでしょうね。やはり大会や部活動の成果って大きいですね。

●教育長

陸上と水泳の大会がなくなって練習もなくなりました。部活動も今は週3回になって相当減っています。体力を培う時間は相対的に短くなっています。今年度の結果についても全国平均等のデータが揃い次第、報告させていただきます。

●瀬川委員

体格的には全国とそんなに変わらないのに、体力面で劣っているのは意識の問題ですかね。

●教育監

小5をみると全国との比較では小さいですよ。たまたま中2の男子が全国平均に追いついているだけで、平成26年の中2は全国との差が大きくて、今回、全国に追いついているから来年以降もこの傾向が続けば全国に追いついたと言えるのですが。森町も体格が小さくて、早くから幼小中でこの改善に取り組んでいますね。とにかくみんなで取り組まないといけないということで凄く前からやっていますが、なかなか改善しないですね。

●学校教育課長

実際子どもたちはどうなのか、といえば、小学校では外で遊ぶ子が少ないことないですし、むしろ非常に多いと思います。運動に対して前向きに取り組む意識は高いと思いますので、小学校段階ではそこを大事にしていきたいですね。中学校では生涯にわたって自分で運動する習慣をつけておくことが必要ですね。体は小さくても伸び伸び育ってあげればいいですね。

●溝口委員

子ども達が体を動かす機会が減っていくのですが、その対策は必要ですかね。学校教育で

手を打っていかなくてはいけないのか、どうなんですかね。体力は低下していくのか、そうでないのか、どうなんでしょうか。

●学校教育課長

どれぐらい体力があればいいか、という基準って難しいと思います。どうしても過去10年、20年で比べると、陸上、水泳の練習をやってきて、部活動もバリバリこなしている時代と比較すれば体を動かすことは減っていて、運動能力も落ちていると思います。その辺をキープしていくかが重要です。その基準をどこに置くか分析が必要だと思います。下がったとしてもどこかでキープする、それが示せればと思います。個性化の時代でみんな運動しましょう、とかの時代ではないですが、ここはやりましょうよ、というところを示していくのが学校教育だと思いますので、そこをやっていければと思います。

●教育監

平均の話をしてはいますが、2極化しているのか、それとも山型になっているのか、わかりませんが、保護者にはその辺の傾向が進んでいることも理解してもらった上で子どもをみていかないといけないですね。各学校、自分たちの子どもがどうなっているのか細かい分析して対応していく、学年によっても違いますので。保健室からみてどうですか。

●金原袋井北小養護教諭

体躯の話もそうですが、体力のために大人が先生がこれをやりなさいと指示されたことによって、子どもたちは楽しくないですよ。与えられるものがいくつがある中で子ども達がやりたいこと、自分にあったものが何なのか、どんなものが楽しいと思えるのか、という気持ちで運動していく、健康面でどう過ごすのがいいのか、子ども自身が考えることが大切だと思います。私たちが子どもたちに何を与えることができるのか、今ネットから子ども達はいろんな情報を得ることができます、大人たちもできますが、本当にその情報が正しいのか、本当にその情報が必要なのか、大人も教育も考えなくてはいけないですね。与えられた情報を鵜呑みにせず、自分だったらどうするのか、そういった保健指導をしていきたいと思います。

●教育長

体力体格、健康は密接に関係しているので経年でみていく必要があります。時代が変わっていくと運動する場面は減っていきますし、学校教育だけでなく社会全体で、親御さんが運動が好きならそのお子さんも運動が好きになると思うので社会全体で取り組む必要がありますね。今後も経年で見ていきたいと思います。

7 その他

(1) 連絡事項

ア 愛の手紙 特別編（袋井市文化協会主催）

(2) 次回定例会等の予定について

9月教育委員会定例会

9月29日（木） 午後1時30分～ 教育会館3階B会議室

8 閉会

（午後3時55分閉会）